

上段左から
渡部 一美さん
和氣坂久美さん

下段左から
西岡 真理
(支援センター職員)
高橋 文恵さん
叶田 初栄さん
白石 厚子さん



さあ、子育てを楽しもう

ていただいたりすることができて助かっています。

西岡…私が全部相談にのって解決しているのではなく、お母さん同士が「ああ、うちもよ。」と言いながら、話をしているのをよく見かけます。日野さんは、最近よく来られるようになりました。最初はぼつんとされていたのですが、ちよつとしたきっかけで、いっしょにいろいろな話をされるようになりました。ご自分の中で何か変わられたのですか。

日野…声をかけてもらうと、結構飛び込んでいけるのですが、きっかけがなかなか難しかったです。続一大決心でこちらに来ました。続けて来ることで、自然と友人もでき、子どもも慣れ、話ができるようになりまして。今は親の方が助かっているという感じです。

白石(美)…子どもの性格にもよると思いますが、育ちにくい子どもはいると思います。うちの子は、とても手がかかるのではないかと思ったり、よその子はどうなのだろう、この子は友だちをつくれるのかなど、小さいうちから心配したりしました。友だちを作りたいと思ひ、松山のサークルにも入っています。やはり近所の方とならサークルのない日にも一緒に遊んだり、支援センターに集まったりすることができると、自分もストレス発散になります。子どもはお母さん同士が仲良くしていると、そのお母さんにもなついて人見知りしない子になるので、小さなうちからいろいろな人とふれあうことはいいことだと思ひ、利用させてもらっています。

町長…今、お話にあったように、小さな子どもを育てる時、一番私がかつてはいけないと思うことは、他の子どもと比較したり、自分が

引きこもつたり、子どもにあたりたりすることです。幼い子どもたちには責任があるわけではありません。子どもの長所を見つけて、いかに引き出すかが大事だと思ひます。

そのためにも親子が一緒にいる時間というのを少しでも多くつくり、自分の子どもは自分で責任を持つて育てていくことが大切だと思ひます。

西岡…サークルに参加している時間も比較することがあります。

永野…比較してしまうこともありますが、人と比べるのはよくないのですが、本当にこれでもいいのか不安になるのです。でも支援センターに来て、みんなに話してみたら「うん、そうだよ。」と言ってくれるのです。「ちがうよ。」と否定せず、必ず「そうよね。そうよね。」と言ってくれることで、また、安心して家に帰ることができるのです。

子育て 人育て!

松前保育所長…保育所では子どもを集団であつかっていますから、たいへん差のある場合もあります。でも、早くできたからその子にもすごい知能があるかというところではありません。人間は、本



当にゆつくりゆつくり成長していく人と、すつと成長する人がいて、個人差があります。

その子の特性をしつかり見据えることが大切です。それさえしつかりおさえておけば、何も葛藤する必要はないと思うのです。長所を早く見抜いて、ことあるごとに誉めていくと、短所がカバーできてるものです。そして、3、4歳になると今度は、親に認められたい、周りの人に誉めてほしいという気持ちが強くなります。そういう時に、何か直そうと思つたら子どもを誉めるのです。例えば、「今日は強かったね。」そして、「今度は、ここをこうしたらもっと強くなれるよ。」と少しだけ悪いところを言うのです。すると子どもは、素直に聞き入れてくれます。